

◇私はこうして健康を回復した

大槻伸次

私は、ゼロ歳時（0.5 歳児）風邪がもとで、肺炎、中耳炎、胃腸炎を長く患い、病気のデパート状態だったそうだ。私が生まれたのは大東亜戦争開戦の年（昭和 16 年）で、当時の太田は新興都市で満足な医院がなかったため、北風吹きすさぶ極寒の中、乗り合いバスや電車を乗り継いで隣町の足利市内の医院に通ったそうだ。ところが、風邪から肺炎を併発しそれが元で次々と病に侵され、急性中耳炎は慢性化してしまったと母から聞いた。当時は未だ、抗生物質がなかった時代で、慢性中耳炎は治癒が難しい病気だったようだ。あの遅咲きの大ピアニストとして知られるフジコ・ヘミング女史も慢性中耳炎に悩まされたようだが、私と同年代でも治療に苦労をした人たちを知っている。今年（2020 年）2 月 23 日 NHK の「ファミリー・ヒストリー」で、そのフジコ・ヘミング女史が登場した。彼女は欧州での初のピアノリサイタル直前に持病の中耳炎が悪化し、耳が聞こえない状態になってしまったそうだ（演奏家として致命的）。苦慮の末、ピアノリサイタルは取り止めざるを得なくなってデビューの機会を失った。そこで、彼女は父の国であるスウェーデンに行って中耳炎の治療と聴力回復手術を受け、ピアニストとして今日に至っているそうです。

1. 私は成長後、このゼロ歳児に患った慢性中耳炎にずっと悩まされてきた。慢性中耳炎は風邪をひくと再発し易く、勤め人となってから手持ちの休暇は風邪と中耳炎の為に全て使ってしまったこともあった。幼いころ患った慢性中耳炎は成長後も完全には完治せず小学 5 年生時、大病院で本格的な治療をして一応は完治したと云われたが、その後もひょんなことから再発を繰り返した。その度、市内の全ての耳鼻科の医者を渡り歩いたが、回復するどころか逆に悪化した。困り果て、学校長をしていた伯父に相談したところ、元校医を紹介され診てもらったらなんと短期間で治癒した（医者との相性があるのか）。その後も風邪をひくと再発することがあって何度か診てもらうことができたが、惜しくも病気がちの老先生は亡くなられて途方に暮れてしまった。（三菱電機の電気掛け布団を紹介したら即座に買ってくれ感謝された。）

その後、幸いなことに若い女医先生の耳鼻科が開業したので早速診て貰ったところあっという間に治癒した。そこで、私自身の病との相性がいいようで、今後の事を考えると若い先生なので一安心だった。ところが、あるときから短期間で再発を繰り返すようになって悪い状態が約 2 年間続いた。そこで、先生はこんなことを口にした。私にはどうにもならない、紹介状を書くから私の出身の大学の耳鼻科で一度診て貰ったらどうですかと云われた。私としてはすごくショックだったが、そうせざるを得ないのかなと諦めの境地だった。帰宅後、頭の中でいろんなことが去来（仕事を長期間休まなければならなくなるかも等）したが、ある提案を思いついた。

というのは、自分がそれまで受けていた健康診断の記録が全部保存してあったので、先生に診て貰って、私の体質について何かヒントが得られ治療の参考になればいいなと考えた。勇躍、翌日の通院時健康診断の記録を持っていったら、なんとすごく丁寧

に見てくれた。そこで、先生はちょっと首を傾げながら大槻さんは「鉄分」が不足しているようだねと云われ、今日から鉄剤を出すから飲んで様子を見ましようかとなった。その結果、なんと2年間すぐれなかった病が、あっという間に完治し先生も驚いたよう様子だった。その後、一度だけ風邪をひいて再発したが、直ぐに治癒し定年後も含めて25年近く風邪も中耳炎を一度も発症してない。今こうして健康で過ごすことができるのは、自身の思い付きもあったが、あの時耳鼻科の先生が私の持参した健康診断の記録を見て正しい判断してくれたことがあったからであり、すごく感謝している。

2. 私は従来から胃腸は丈夫でなく（やはりゼロ歳児で患った風邪がもとで）、なにかの拍子でふと胃腸の調子が悪くなることがある。ある時、胃腸の調子がすごく悪くなり買い薬（太田胃散など）ではなんとしても駄目で医者にかかった。ところが、医者で処方された薬を飲んで回復はするが、油断していると直ぐに悪くなるという繰り返しだった。この症状はずっと以前にかかった先生に、いい加減で薬を飲むのを止めて様子を見ましようかと云われたことがあった。そこで、仕方なく市販の胃腸薬を片っ端しから試してみたが、どれも全く効果は無かった。ところが、ある時、文芸系の分厚い月刊雑誌に「S 漢方胃腸薬」という胃腸薬の宣伝広告が載っていたので早速試してみたところ、なんと急激な回復は無かったが、確実に効いているなど感じた。

その後、なんとこの薬のおかげで、胃腸の具合は順調に回復し体重（52キロ→62キロ）はもとに戻った。ところが、この薬はある特定の薬チェーン店でないと販売していないので、万が一の事を考えて他のいくつかの漢方胃腸薬を試してみたが、効果は感じられなかった。お陰様で、現在はこの胃腸薬の世話にならずに済むようになったが、安心の為一箱は常備するようにしている。

余談

1. 妻はすごく肩凝り症で、症状がひどいときは呆れるほど肩たたきを頼まれた。その後、妻はテレビでアリナミン EX（活性持続型ビタミン剤）の宣伝をみて試したところ効果があったようで、全く肩たたきを頼まれなくなった。アリナミンはその後もずっと飲み続けているが、肩凝りの話は全く聞かない。

2. 義弟は右耳の聴神経に関係している脳内に良性腫瘍ができ、手術（大学病院）で取り除かなければならなくなった。そこで、手術後は完全に聴力を失うと予告された。手術は無事終わったが、事前の予告通り全く聞こえなくなってしまった。その後、同様の腫瘍が左側にもでき、手術で取り除かなければならなくなった。そこで、手術後は両耳の聴力を完全に失うことになるので、手話を覚えるように言われたそうだ。

困り果てた義弟は、ネット等を頼りに名医を探しあてた。そこで手紙を書いたところ応じてくれ、その病院（東京の有名医大）で手術（ガンマナイフ）したところ聴力を失うことなく腫瘍を取り除くことができたのである。世の中、大勢の方が人知れず健康や病気で悩んでいると思われるが、諦めずにあらゆる努力をしてみる事が大事なことだなとつくづく思わされた。